

## 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

	池田 琴恵【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成19年度生】 (平成26年3月31日 単位修得退学)	要 旨
学位申請者		<p>本論文の審査は、第1回が平成16年8月2日、第2回同年10月26日、第3回同年12月22日に行われ、最終試験が平成17年1月13日に行われた。</p> <p>本論文は、近年学校現場で形骸化しがちな学校評価活動を学校組織の主体的な組織開発法とするため、コミュニティ心理学におけるエンパワーメント評価法の1つであるGTO (Getting to Outcome) システムの学校評価版の生成を目的としたものである。</p> <p>具体的な内容として、第1部の理論的検討では、学校経営学・評価学等関連領域の先行研究を踏まえて学校評価の実態と課題が整理され、エンパワーメント評価の実践システムおよび組織のエンパワーメント等について理論的な整理・検討、仮説モデルの提案が行われた。</p> <p>第2部の実践研究では、学校評価GTOシステムの開発として、5つの研究協力校における4年間の試行過程を通じた同システムの構築が実践研究として述べられた。試行版ワークシート等の改善や、ロジックモデル・プロセス評価・アウトカム評価などエンパワーメント評価の特長が学校評価にも効果的に活用できることが質的・量的に示された。</p> <p>第3部の総合考察では、学校評価GTOの有効性と実践モデル、課題が述べられ、本論で開発された学校評価GTOシステムを用いることで、教員や学校管理職が、各校独自の教育課題を踏まえて主体的に学校評価を通じた学校改善を行えることが総括された。</p> <p>審査の過程では、実践研究の厚みや内容のオリジナリティ、理論的検討の精緻さなどが評価されると共に、本論の実践的意義の明確化や、分析方法の改善、事例の位置づけや特長の明確化と記述の改善、ツールの有効性についての正確な記述、などについて修正要求があり、指摘事項に適切な修正がなされ、公開審査に進むことが認められた。</p> <p>平成17年1月13日の公開審査では、校内での実施において管理職主導であることにおいて校内ではトップダウンの活動に終る危険や、今後の普及に向けたツールの更なる検証と支援者・実施者養成の問題など、今後の課題に関わる指摘や質疑応答があった。いずれも適切な回答が行われ、学力・論文内容ともに学位博士(社会科学)、Ph.D.in Psychology にふさわしいことが認められて、最終試験に合格とされた。</p>
論文題目	学校におけるエンパワーメント評価モデルの生成 —学校評価ツールの作成を通して—	
審査委員	(主査) 准教授 伊藤 亜矢子	
	教授 平岡 公一	
	教授 加賀美 常美代	
	准教授 青木 紀久代	
	教授 浜野 隆	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ・ ⊖ )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ⓐ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

